

資料2 大西山墓石形別



①位牌形



②船形光背地藏形



③丸彫地藏尊形



④笠付方形



⑤卵塔形



⑥駒形



⑦方形



⑧方柱形

(資料2大西山墓石形別参照) 以下のとおりになる。この分類は外見から付けた名称だから正式ではないと思うが、名前を付けないと説明がしづらいので無理やり付けることにした。

多い順に、位牌形十四基、船形光背地藏形六基、丸彫地藏尊形三基、笠付方形、卵塔形は各二基、駒形、方形、方柱形は各一基、それと丸彫地藏尊の台座のみで戒名と年代がわかる墓石の一部が二基と、戒名のみで年代がわからない墓石の一部が一基ある。

成人の墓碑は位牌形が圧倒的に多

く、子供の墓石はすべて子供の守り仏、地藏さんが丸彫か船形光背に彫ってある(子供の墓石は形が墓碑とは言いにくいので墓石としている)。五輪供養塔等に関しては戒名も年代も彫っていないのでここでは対象外とした。

年代と形をもう少し詳しくみると、一番古い墓碑①が笠付方形、二番目に古い墓碑②が方形、三番目に古い墓碑③が笠付方形(以後墓碑を指すときは○印の番号で表す)だが、この②の方形墓碑の初めの状態は、最初に墓地に入った時の記録を見れば「後ろに倒れている、戒名二名、笠

がついていたかもしれない」と書いているので、元々笠付方形で笠がなくなったものと思われる。というのも③の笠付方形墓碑は倒壊して立て直した時は方形だったが、前方に笠が埋まっていて方形の上に乗せ笠付方形になった。だから享保・寛延、この墓地の墓碑建立初期の時代は笠付方形から始まり、その後宝暦になってから、江戸時代の代表的な位牌形の墓碑が初めて建立された。しかし、その後の成人の墓碑はすべてと言ってよいほど位牌形に変わってしまった(例外的に方柱形が一基と駒形が一基あるが駒形は位牌形の変形である)。もっと小さいところまで見ると、位牌形でも初期に建立された④⑤⑥の宝暦時代の墓碑は、竿の部分上部と下部では厚みが違い、下部にいくほど厚くなっていて石肌の加工も粗く稚拙である。その後⑨の安永時代からは竿の幅、厚みは同じで石肌も緻密になり幕末まで続いている。

一方、子供の墓を見ると、この墓地で年代の分かる完全な姿で残っているのは⑩寛政元年から⑫文化十四年までの八基である。このほか時代のわからないのが一基と、地藏尊がなく明和二年と寛政十一年の台座(五輪塔の地輪かもしれない)のみが各

一基ある。

これから見ると、享保八年(一七二三)から嘉永六年(一八五三)までの130年間の間に子供の墓は寛政時代と享和、文化の28年間に集中している。しかも丸彫地藏尊形三基はすべて寛政時代で、船形光背地藏形は次の元号の享和と文化になって建立され、その後は一基も見られない。子供の墓も成人の墓と同じく時代によって形も変わっている。この後、嘉永六年まで35年の間にも子供は死亡しているはずだが一基も見当たらないということは墓石建立にも流行があったと思われる。

子供の墓石が集中的に建立された時代28年間、当地域に飢饉・疫病が大流行したのか調べたがわからなかった。

卵塔形の墓碑は二基ある。この形は当時から現在も変わっていないお寺関係の人と思われるので今後は除外する。

戒名と特徴

墓碑は故人の供養のために建立するので正面には故人の戒名が書かれている。戒名は生前の名前と違って旦那寺の住職が付けるのがふつうである。この戒名から何か特徴が分かるのかもしれないと思い調べてみた。

私を含め一般的に墓碑正面に刻まれているすべての文字を戒名と思っ
ているが、上から院号・道号・戒名・
位号と別れている。

大西山の墓碑は院号のついでに戒名は一基もなく、成人は道号・戒名・位号、子供は戒名・位号になっている。戒名と言えはすぐ目がつくところは、居士・大姉、信士・信女の位号と言われる部分だが、禪定門が一基と法師が一基、法尼が一基、居士・大姉が一基だけある。禪定門、法師、法尼がどのような基準でつけられたのか分からないが、居士・大姉は何らかの形で寺院か地域に多大な貢献をした人だと思う。

しかし、全体を見れば信士・信女がすべてといってもよく、子供の戒名はすべて童子・童女である。これから見ても当地区はどこにでもある江戸時代の農村だったのだろうと想像できる。

最近の墓地へ行ってみると、ほとんど中央に〇〇家之墓などのように家単位の墓になっていて、個人名(戒名・俗名)は墓地の左右どちらかの墓標に小さく記されている。しかし、江戸時代の墓はすべて夫婦・個人の墓であり家単位の墓は見当たらない。現在思われている当時の家族観イメージとは異なっている。

一基あたりに被埋葬者が一人なのか複数なのか調べると、成人の墓が十九基ある。夫婦墓が九基、個人墓が八基、二人墓(女性)と、三人墓(夫婦と息子)が一基ある。これを時系列でみると、古い順に享保時代から始まる①②③が夫婦墓、宝暦年間の④⑤⑥が女性の二人墓と個人墓、安永、寛政、文化年間の⑨⑬⑭⑯⑰は夫婦墓、その後、文政、天保、嘉永年間の⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺は男性の個人墓、単発的に天保時代㉞三人墓、弘化時代㉟夫婦墓、嘉永時代㊳女性の個人墓である。ここにも時代による特徴が出ている。興味深いのが女性の地位が低いとされ墓地内にも墓碑があまりなかった時代の宝暦年間に④⑤⑥女性の二人墓一基と個人墓二基が建立されていた。夫もいたと思われるがなぜ夫婦墓ではなかったのか、未婚だったのか、誰が建立したのか。

その後は、安永、寛政、文化と夫婦墓が続いて建立されているが、文政時代から、天保、嘉永にかけて様変わりし、ほとんどが男性の個人墓になっている。この時代になり儒教思想が色濃く出て男尊女卑、家中心、家長の権威が尊ばれその後の近代に続いていったのではないかと思われる。

一方、子供の墓を見ると、戒名が分かる墓石の一部を含めると十二基存在する。一番古い台座のみ⑧は明和年間で三人の戒名が見られ、そのうち一人は成人の戒名である。ということは五輪塔の一部地輪で供養塔として建立されたのではないかと思う。約二十年後の寛政期に⑩⑪⑫の丸彫地藏尊形と台座のみの⑮が建立されているが、彫られている戒名の人数、一人が一基、二人が一基、三人が一基である。もう一つ年代のない台座にも三人の戒名が見られるので、この丸彫地藏尊形は供養塔の意味合いがあるようだ。

同じ子供の墓でも文化期になって現れた⑲⑳㉑㉒の船形光背地藏形は、一基に一人の戒名で親が我が子一人のため建立している。一基だけ戒名二人で年代が彫られていない墓石があるがこれも同時代だと思われる。

子供の墓も時代によって形がくつきりと分かれている。この墓石の中で⑳の戒名が春法得性信士とあるのが成人である。おそらく十五歳になったばかりで戒名は成人だが、親から見ればまだ可愛い子供だったから船形光背地藏の墓石にしたのではないか、親心としてはわからないこともない。

現在使用している北飯盛の墓地で

墓碑・墓標を見ると建立者、戒名、没年、俗名、行年が刻まれている。大西山の墓碑を見ると行年が刻まれている墓碑は一基もない。没年はほぼすべてにわたって刻まれている。墓碑に俗名が登場するのは、嘉永元年㉙弥右エ門、⑳俗名平次良、嘉永二年㉚弥三エ門の三基であり、建立者が分かる墓碑が寛政十一年⑭の九郎兵エ父母、嘉永六年⑳母元吉の二基である。どちらも息子が施主であろう。成人の墓碑十九基のうち戒名以外の名前があるのはわずか五基である。それも⑭の建立者を除けば四基はすべて嘉永時代で、墓地の歴史から見ると最後の六年間にしか見られない。

この現象を考えると、寺檀制度ができ、戒名を付けてもらっていた当初は亡くなれば生前の名前から戒名に代わりその後のすべての行事は(法要・供養等)戒名で執り行うので俗名の必要性が薄れ、しかも生前のどこにでもあるような名前から聞いたことのない漢字四文字の戒名が少し誇らしかったのかもしれない。ところが時代が下がるにつれ、文化、教養等が向上し、儒教の影響で自分の家系を誇りにする意識が発生し、被埋葬者の俗名、施主の名前等を入れることにより存在感を示そうとし

たのではないか。

梵字と置き字

戒名の上部に梵字の有無を見ると、十九基のうち梵字があるのは十六基ですべて**四**である。この梵字は以前述べたように密教を現わしている。梵字がないのは三基、時代はバラバラなのであまり特徴はないと思うが三基のうち一基は歸元と刻まれている。

戒名の下部にある置き字の有無と種類を調べると、墓碑十九基のうち有るのが十基、無いのが九基である。詳しくは、①③の置き字が一蓮、⑤は一字あるが不明、⑥は文字ではなく蓮華の陰刻線描き、

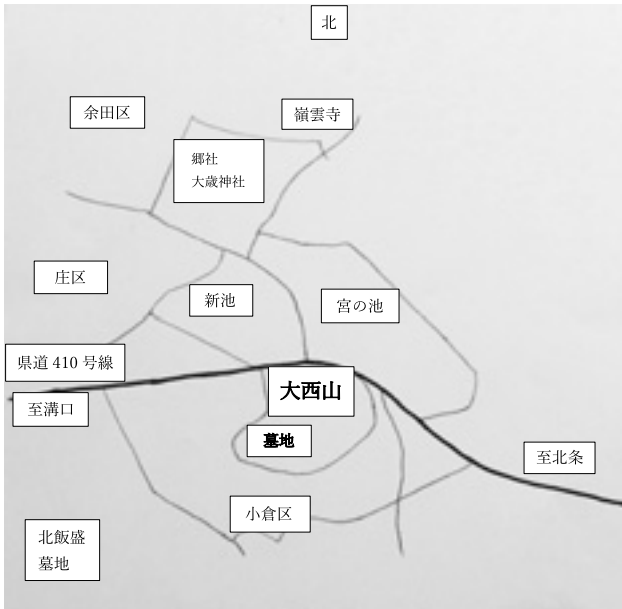
⑧は各灵（靈の俗字）
⑫は灵、⑭⑮⑲は位、
残りの九基は置き字なし。特徴ははっきりしないが強いて言うなら戒名一人の墓碑は八基中、置き字有が三基、無しが五基、戒名複数の墓碑は十一基中、有が七基、無しが四基で、複数戒名の墓碑の方が置き字のある割合が多い。しかしこれは戒名一人の墓碑の方が小

いのでそのような結果になっているのかもしれない。

最後に、墓地中央に一回り大きな船形光背地藏が設置されていて、刻まれている文字は一部不明だが二行に彫られ「念佛講中寄進之／＼保□□戊七月吉祥日」となっている。

現在の墓地事情と今後

現在は少子高齢化で庄地区も人口減少になり、老人が増え子供の数が少なくなっている。若者は都市へと向かいそれに伴い周りを見渡しても空き家が増えてきている。あまり問題にされていないがこの先墓じまいも予想される。当地区の野林、北飯



大西山(愛宕山)位置図 福崎町八千種字大西山

盛の両墓地でも墓を見守る人が少なくなり、だんだんと菌が抜けるように墓石が少なくなってくるのではなにか。大西山の墓地は人口減少が原因ではないが、何らかの理由で百年以上前から参る人もなくなり、今のような形になっているが墓碑は一基も減っていない。しかも石に刻まれないな状態で江戸時代の情報がこれだけまとまれば立派な文化遺産・遺跡として今後百年、二百年後も残っていくと私は思っている。

この資料で書きだした墓石の年代は没年である。建立は没年ではなく三周忌とか十三周忌とかの節目に建立しているかもしれないのでタイムラグがあるが、各墓石によって違うので勝手ながら没年で表示している。

参考文献

- 『福崎町史』第一巻
- 『福崎町史』第三巻
- 庄村明細帳（鍛冶屋地区有文書）
- 『あの道この道』別冊上

庄幹正著

『墓石が語る江戸時代』

関根達人著

庄地区の概要

現在、兵庫県神崎郡福崎町八千種（四か村）。

江戸時代、播磨国神東郡八千草之庄 庄村 すべての期間姫路藩に所

属。

●庄村

当村。江戸時代、神東、神西郡を通じて第一の石高を有する。

●余田村

郷社大蔵神社にて町指定民俗文化財「浄舞」を執り行っている。

●鍛冶屋村

福崎町指定文化財「かくしほちよじ」が有名。

●小倉村

元々は庄村だったが江戸時代前期に分村。

庄村は八千種地区で一番大きな村なので、賦役、葬儀などをする時にブロックに分かれて行うため、村だけで通じる行政区（垣内）があり五か所に分かれている。小字とは一致しない。

東垣内、前垣内、奥垣内、西垣内（最近の呼び方で以前は野垣内）南垣内（最近できた新興住宅）。
庄地区の墓地の概要
現在の墓地二か所。

●八千種字野林

おおむね、前垣内、奥垣内、西垣内（野垣内）の住民が使用。

●八千種字北飯盛

おおむね、東垣内の住民が使用。
江戸時代の元文二年（一七三七）村明細帳によると墓地は四か所。

つじ川の古い家をたんけん

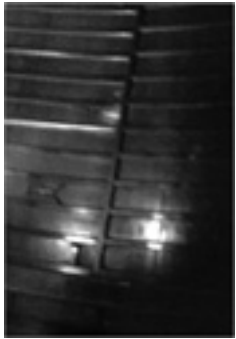
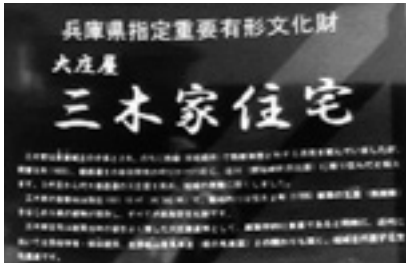
つじ川に大じょうや三木家という、315年も前に作られた家があります。この家をたんけんして、おもしろいものをまとめました。



つじ川の古い家をたんけん

第八回福崎町柳田國男ふるさと賞 小学生低学年の部受賞

田原小学校二年 川上莉央



かまど

100人分ぐ
らいの米がたけ
る大きなおかま
があります。



おくのくち

この部屋の入り口
にふしぎな戸があり
ます。



てんびん



土間

むかしの家には家の中に土のま
まのところがあります。土のままの
ところを土間といいます。



げんかん

とのさまとだいか
んさまだけの入り口

やくしょのま

ここでやくばのし
ごとをしていたそう
です。



うす

「からうす」と
いって、米を白く
するのにつかっ
たそうです。



第八回福崎町柳田國男ふるさと賞 小学生高学年の部受賞

西光寺野疎水

田原小学校五年 山本純也



◆調べようと思ったきっかけ

4年生の社会科の授業で西光寺野疎水のことを勉強しました。今、西光寺野には田が広がっています。それは、百年以上も前に作られた西光寺野疎水のおかげだと知り、興味を持ちました。そこで、よりくわしく調べたり、実際に疎水を見たりしたいと思いました。

◆西光寺野とは？

神崎郡の南東にあり、田原、八千種、船津、山田、豊富の5地区にまたがっており、南北が8kmほどある細長い形をしている台地です。台地は、まわりより一段高い土地で、水が手に入りにくいという欠点があります。

そのため、西光寺野一帯は、森や

林におおわれ、米や野菜を作ることができず、荒れたままの土地でした。昔の人々は、なんとか開拓を進めたいと考えましたが、西に流れる市川、東に流れる平田川のどちらも西光寺野よりも低く、水を引くことが難しい所でした。

◆水路の開発

人々の願いが高まって、水を引く計画が進められました。まず、そのための調査が明治41年から3年にわたって熱心に続けられました。その結果、瀬加の瓜生田に水の取り入れ口を作って、岡部川から水を引くこととなりました。また、用水路だけでなく、貯水のために、これまでにある池を修理したり、新しい池を作ったりする計画もたてました。明治43年12月27日に着工、この日、西光寺野水利組合ができました。

大正3年1月31日、北浦谷貯水池が完成、この池はより高い土地に、水を引くため、日光寺山の下に作られたため池です。大正3年6月15日

には桜池が完成しました。

用水路は長さ6kmあまり、その間はトンネルがあり、水路橋が7つに、暗渠、開渠といろいろと難しい工事でした。一番困難なトンネルは長さ500mほどもあり、その中は人がやっとなれるほどの狭さです。夜も昼もなく工事が続けられ、2年ほどでやっとできあがりしました。

人々はうまく水が通じるかたいへん心配しました。大正3年10月21日、用水路の完成と同時に水を通しました。たくさんの方がかたずをのんで見ていました。予定の量の水が勢いよく貯水池に流れ込みました。心配していた人々、見ていた人々は驚きと喜びの声をあげて、なみだを流したそうです。大正4年2月20日には奥池が完成し、貯水と配水の便がよくなりました。

◆調査の内容

3年もかけてどのような調査をしたかというところ、一番大事なことは土地の高さをはかることでした。市川から水を引こうと思っても、水は低い所から高い所へは流れません。「どこから水を取り入れて、どこを通すか」を考えながら、西光寺野全体と市川町の瀬加の土地の高さを調べていったのです。そうして決まったの

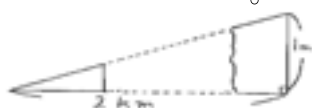
が瓜生田（瀬加）の岡部川から水を取り入れることでした。

あとは掘るだけ：というような簡単なものではありません。水は高い所から低い所に流れます。ジェットコースターのように低くなってからまた上がっていくようにはいきません。高さがびっしり書きこまれた地図を元に工事をしていくのです。

用水路の傾きは2000分の1。すなわち、2000m進んで1m下がります。そんな坂を作るのです。その途中、山があればトンネルを、土地が低くなっていれば、橋をかけたり土地を盛って高くしたり。それを正確に高さをはかりながら工事を進めていきました。このころは、コンクリートは使っていません。石を組んだり、レンガを使ったり、土を盛り上げたりして作っていました。

◆疎水完成後の変化

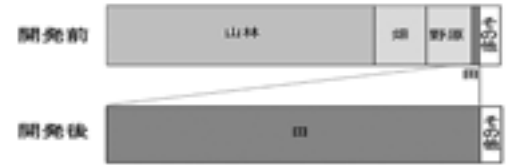
用水路とため池のおかげで、冬の間に水をたくわえておいて、稲を作る時期に利用できるようになりました。でも、用水路が引かれたといって、すぐに田ができるわけではありません。木を全部切って根を掘り起こして、石を取って平らにして田を



作っていききました。これも、大変な仕事だったと思います。

こうして西光寺野に水田が広がり、それまで取れなかった米がたくさん取れるようになりました。

西光寺野疎水が開かれる前後を比べてみると、田の広さは約460倍になっています。また、住宅の数も数十倍に増えました。

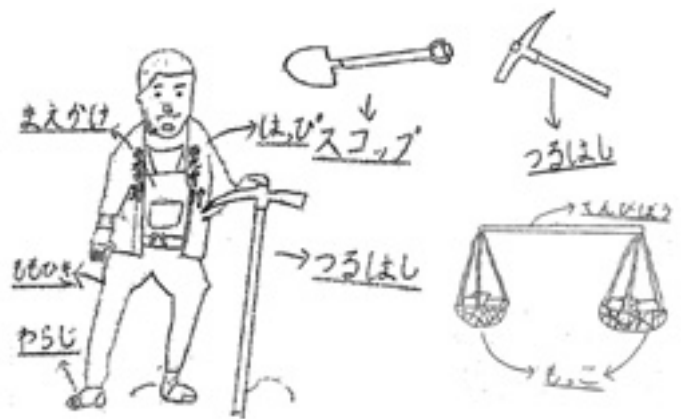


工事もちろん大変ですが、今の価値に直すと200億円以上の費用もかかっているそうです。多くの人たちの苦労や負担のおかげで、今のような西光寺野に変わっていったのです。その後、昭和28年8月から8年がかりで改修工事が進められました。

◆昔の工事中の服装や道具

工事中の服装は、絵のように「はつぴ」、「まえかけ」、「ももひき」を着て、「わらじ」をはいていました。

道具は今のようにはシヨベルカーやトラックというわけにはいかず、「スコップ」や「つるはし」、「もっこ」、「てんびんぼう」などを使っていたの作業です。



◆西光寺野疎水をめぐる

次に、現在の西光寺野疎水の様子を調べるために、まず、長池に行きました。長池は兵庫県で3番目に大きな池です。こんな大きな池を右のような道具だけで作ったとは信じられませんでした。その後、いくつかの池を見て回りましたが、どの池も水がいっぱいで、「こんなたくさん水が瀬加から流れてくるんだ」と感じました。

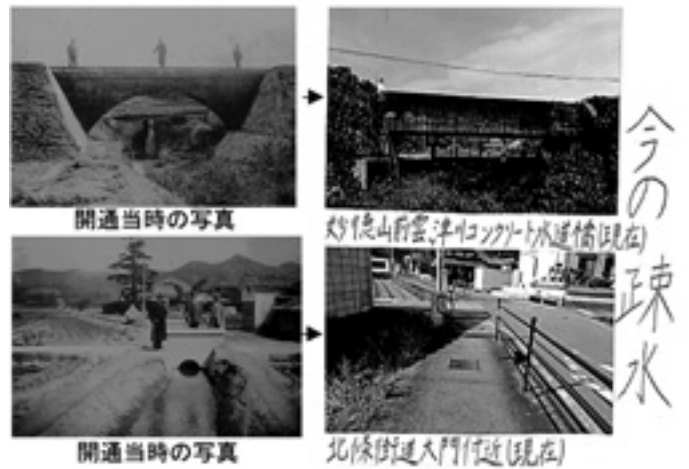
水路橋にも驚きました。橋の上にあがると、しっかり水が流れていました。道路や川の上を水が流れているところもありました。2000分



◆感想

機械のない時代に、森林を切り開き、トンネルを掘って山に水を通す、こんな大変な作業を進められた人たちはすごいと思います。西光寺野のことを調べて、昔の人を心から尊敬するようになりました。

ほくは、福岡町にこんなにも歴史のある物が残っていること、そして、今でも多くの人の生活を支えていることを知って欲しいと思いました。



公民館クラブ会員募集

公民館クラブは、住民が生涯を通じて趣味や教養に自主的に取り組む団体です。

現在、福岡町内では、コーラス、ダンス、吹奏楽、書道、水彩画、ちぎり絵、パッチワーク、パソコン、短歌、俳句、英会話、中国語教室、将棋、囲碁など、六十六クラブが、文化センターや八千種研修センター、地域等で活動されています。

各クラブは、それぞれで会員を募集しています。知識・技術を習得し



公民館クラブ発表会の様子

たい、その成果を地域へ還元したい、活動を通じて友人を増やしたい、等と思われる方は是非、挑戦してください。

問い合わせ先 公民館クラブ事務局
(文化センター内) 22-3755

文化協会 会員募集

文化協会は、福岡町の歴史や伝承を大切にし、その上に立った新しい文化の創造に努め、町の発展に尽したいという趣旨に賛同した有志により昭和61年に設立されました。

現在もその趣旨に沿った各種の事業が展開されています。

昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、各種事業の縮小を余儀なくされましたが、山桃忌奉賛短歌祭は実施いたしました。

この協会の行う事業は、町からの補助金、会員の会費や出役により実施しています。会員は毎年募集していますので趣旨にご賛同いただきご加入ください。

年会費 一人 千円

問い合わせ先 文化協会事務局

(文化センター内) 22-3755

第三十九回 福岡町美術展作品募集

第三十九回福岡町美術展(公募展)の作品を募集します。皆様方のご応募を心よりお待ちしております。

会期 令和三年

五月二十一日(金)

五月二十三日(日)

会場 福岡町エルデホール

主催 福岡町・福岡町教育委員会

部門 日本画・洋画・書・写真・彫

塑工芸

応募は一部門一人一点、未発表の作品に限る。

作品搬入

令和三年五月十五日(土)

午前九時～午後四時

山桃忌奉賛

第三十六回短歌祭作品募集

柳田國男先生と井上通泰先生の命日にちなみ、両先生を偲ぶ会として、毎年八月に山桃忌が行われています。本年の短歌祭は、左記の要領で作品を募集します。

日時 令和三年八月七日(土)

場所 福岡町文化センター

主催 福岡町文化協会・福岡短歌会

作品 未発表のもの・一人二首以内
応募料 一首につき五百円

要領 原稿用紙に楷書で縦書き

宛先 福岡町文化センター内

文化協会事務局 宛

締切 令和三年六月三十日(水)

表紙の写真

表紙の絵は、松岡映丘作『新羅三郎』の画稿で、福岡町立柳田國男・松岡家記念館に所蔵されています。

この絵は『古今著聞集』の一節で、新羅三郎こと源義光が師から授かった笙という楽器の秘伝の一曲を、師の息子豊原時秋に託している場面です。伝統を受け継ぐ者の心意気を伝える美談として有名です。

編集後記

たくさんの方々のご協力により、福岡町文化第三十七号を発刊することができました。

玉稿をお願いしました皆様方には大変お忙しい中執筆いただき、ご協力くださいましたこと厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

